

## (21) 感染制御・感染症専門医コース

### 1 コースディレクター、副コースディレクター紹介

コースディレクター： 金光 敬二



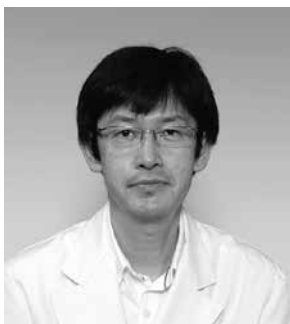
(略歴)

1988年 岩手医科大学卒業  
 2000年 医学博士  
 2001年 東北大学病院検査部助手  
 2003年 東北大学病院検査部講師  
 2007年 東北大学大学院感染制御・検査診断学 准教授  
 2008年 福島県立医科大学感染制御医学 教授

**学会認定医・専門医等**

内科学会認定医  
 インфекションコントロールドクター  
 感染症学会指導医  
 抗菌薬指導者

副コースディレクター：山本 夏男



(略歴)

1995年 琉球大学医学部卒業  
 2004年 医学博士  
 2005年 米国留学  
 2007年 東北大学病院 (助教)  
 2010年 福島県立医科大学感染制御医学講座講師、  
 感染制御部専従 ICD  
 2014年 福島県立医科大学感染制御医学講座准教授

**学会認定医・専門医等**

日本内科学会認定医  
 日本内科学会総合専門医  
 日本感染症学会感染症専門医  
 インфекションコントロールドクター (ICD)

### 2. プログラムの目的と特徴

卒業臨床研修後 (卒後2年) 感染制御・感染症専門医の取得を目的とするコースである。

1年次 (卒後3年) には感染症治療は勿論のこと、感染症の病因、病態生理、微生物の概要などを学びながら内科認定医の受験資格を取得できる。2年次から4年次 (卒後4年～6年) には更なる感染症専門医療の研修を行い、感染症各論、感染症コンサルテーション、感染制御学などを学び、4年終了時には日本感染症学会専門医の受験資格を取得できる。後期研修4年間のうち希望により、海外研修でマラリア、デング熱、狂犬病などのトロピカルメディスンの研修も可能である。さらに、1～2年次に大学院に入学し専門医研修と同時に4年間の基礎的もしくは臨床的研究により学位取得も可能である。

### 3. 取得できる専門医名

感染症専門医

インフェクションコントロールドクター

#### 4. 専門医取得の要件

##### 感染症専門医

1. 基本領域学会専門医（認定医）に認定されている者。
2. 感染症の臨床修練を積んでいること。
  - 1) 基本領域学会の研修年限を含めて感染症学の研修を6年以上を行っている者。
  - 2) その内、3年間は本会が指定した研修施設で、別に定めるカリキュラムに基づいて研修を行っていることを原則とする。  
尚、研修施設、指導医については別に定める。
3. 感染症の臨床に関して、筆頭者としての論文発表1篇、学会発表2篇、計3篇あること。
4. 日本感染症学会会員歴5年以上で、この間、会費を完納している者。
5. 審議会が施行する専門医のための認定試験に合格すること。

##### インфекションコントロールドクター

1. このICD制度協議会に加盟しているいずれかの学会の会員であること  
(会員歴の長さは問わない)。
2. 医師歴が5年以上の医師または博士号取得後5年以上のPhDで、病院感染対策に係わる活動実績があり、所属施設長の推薦があること。
3. 所属学会からの推薦があること。

#### 5. プログラムの概要

コース名：感染症専門医コース、感染制御専門医コース

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
福島県立医科大学	感染症学	感染症病因学 感染症疫学 感染治療学全般	2	感染症専門医の育成	制限無し	4年
福島県立医科大学	感染制御学	感染制御学全般	3	感染制御医の育成	制限無し	4年

感染症専門医研修医は大学病院内の感染症コンサルテーション、感染症ラウンドに参加し、感染症専門医あるいは感染制御医のもとで研修を受け、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会で最低年2回の発表を行う。

## 6 年間症例数等

(個々の患者を直接対象としない)

## 7 研修施設・研修責任者等一覧(医大及び協力病院)

施設名	所在地	診療科	指導責任者	専門医数
福島県立医科大学 附属病院	福島市光が丘1	感染制御部 検査部	金光敬二	2～3

## 8 専門医取得実績

平成4年 感染症専門医 1名  
平成9年 同上 1名

## 9 評価方法

- ・ コースディレクターが副ディレクターと共に判定する。
- ・ 研究論文や学会発表をも考慮する。